

「新年度のご挨拶」

ボストン日本語学校運営委員長 藤尾 彰

保護者の皆様、そして、本校運営に携わる関係者の方々、日頃より温かいご支援ありがとうございます。本校は、1975年に生徒25名から始められ、今年で創立38年、約700名以上の児童生徒が通う大きな学校へと成長しました。これまでの発展は、諸先輩方のご苦勞と関係者の尽力、そして保護者の皆様のボランティアをなくしてはありえないことだと思います。私は、今年度より、前町田運営委員長から委員長職を引き継ぐことになりました。この歴史と伝統のあるボストン日本語学校の更なる発展のために、力を尽くしたいと思います。

さて、皆様の中には、運営委員会がなんなのか、ご存知ない方もいらっしゃるのではないのでしょうか。PTA執行部とも違います。ですが、会社組織を考えると分かりやすいかと思います。会社には、社長がおりますが、Board of Directors があります。最終的な会社としての方向性や決議をする機関です。運営委員会は、その Board of Directors にあたるのです。運営委員会というのは、海外子女教育、授業料、人件費、校舎借用、補助金、事務所、安全対策、渉外といった様々な事柄に対し、会社経営と同じ視点で、学校運営に関わる決議をする、最高意思決定機関というわけです。メンバーは、校長、教頭、事務長、主任部長、財務委員会、法務委員会、人事委員会、安全委員会、PTA会長、副会長を委員とし、そして、日本人会会長、在ボストン日本国総領事館領事、名誉校長を顧問として構成されています。

10年以上も前の話になってしまいますが、日本の学校とサンフランシスコの補習校で子供たちを見てきた経験がありますが、実感するのは、生徒と保護者のニーズが、10年前とは明らかに変わってきているということです。ましてや、38年前の創立当初とは相当に違うのではないのでしょうか。日本、アメリカの経済事情も違ってきています。テクノロジーも10年前には考えられなかったことが起きています。4年ほど前よりITの担当として、紙媒体、電話が主だったものをウェブサイト、メール、PDFといったものを活用することで、時代に合った連絡手段への変更を行い、そして経費削減にも努めてまいりました。

学校、教育というものは、歴史と伝統を守りつつも、現代、そして、将来に目を向けた上で、世情に沿ったものに対応していく柔軟さも備えていなければならないと思っています。「これまで、こうしていたから」、「これまでこうだったから」という視点ではなく、「なぜこうしてきたのか」、「これからはどうするか」という視点で、他の運営委員の皆さんと一っしょに、学校運営を行っていきたいと思います。これから一年どうぞよろしくお願いいたします。

